

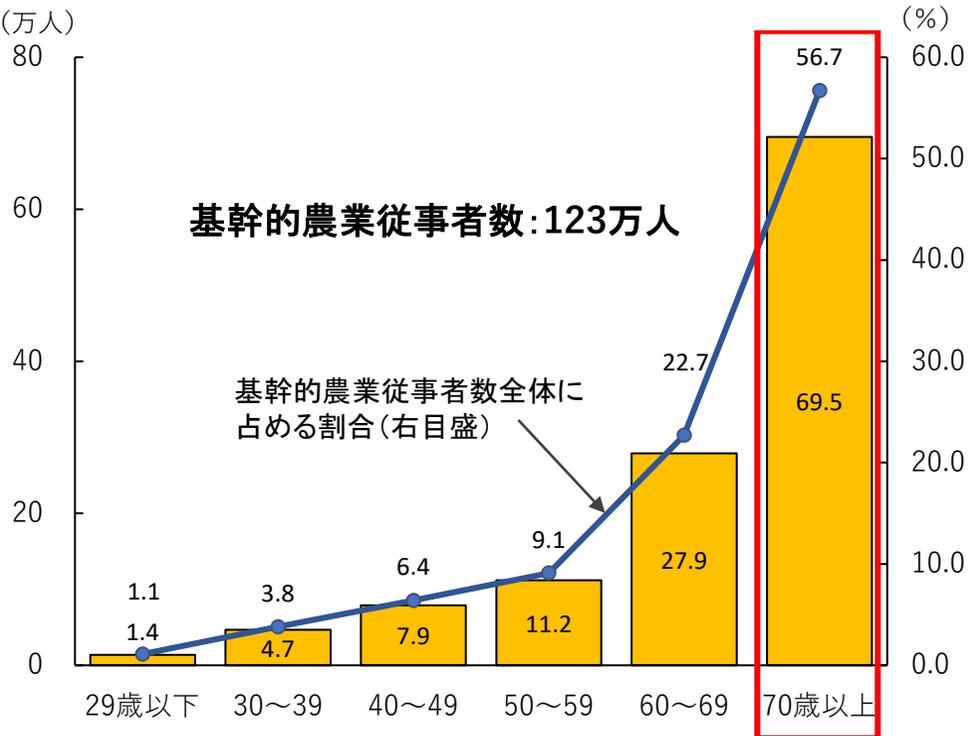
我が国の食料・農業を めぐる状況

令和4年9月
農林水産省

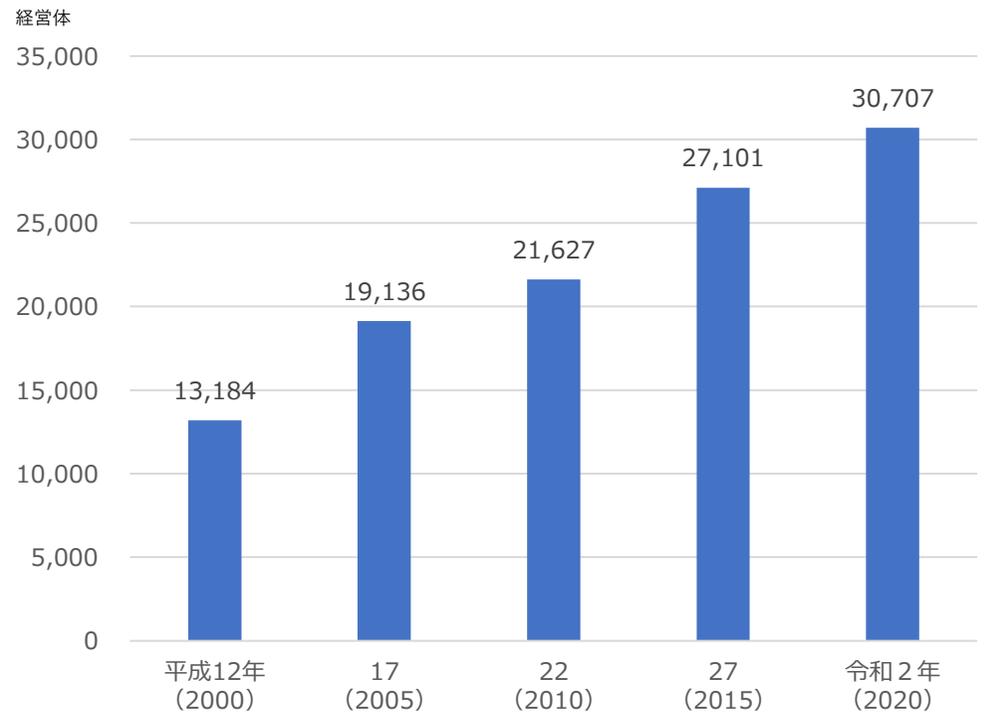
我が国の農業者の状況

- 我が国の基幹的農業従事者数は高齢者が多く、50代以下の層は全体の2割程度しかいない。
- 法人経営体数は増加しているものの、3万経営体程度。
- 今後担手が極端に減少すること等も見込まれる中で、現状の農地を維持するためには、スマート技術の活用が不可欠。

○基幹的農業従事者の年齢構成（2022年）



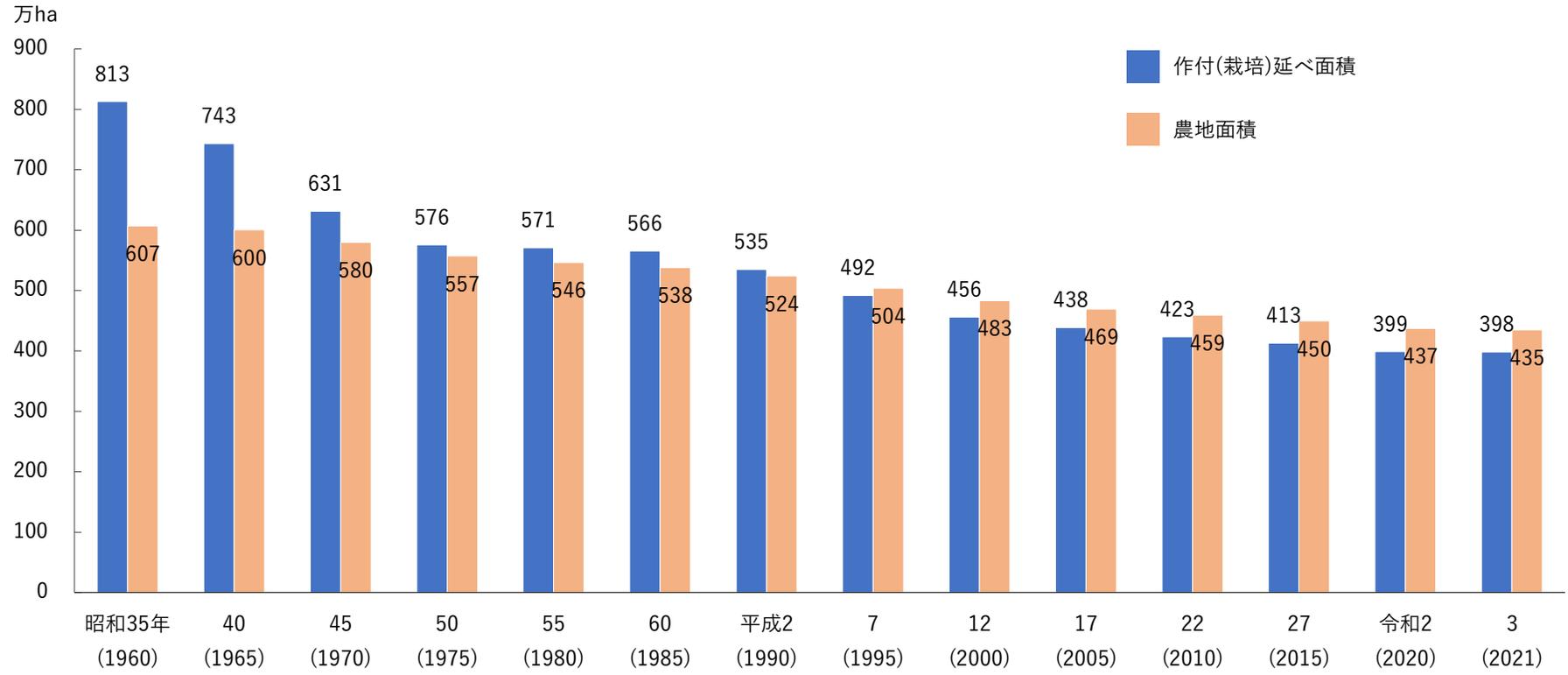
○法人経営体数の推移



我が国の農地の状況

○ 農地面積は、転用需要等により減少傾向が続いている。

○農地面積、作付（栽培）延べ面積

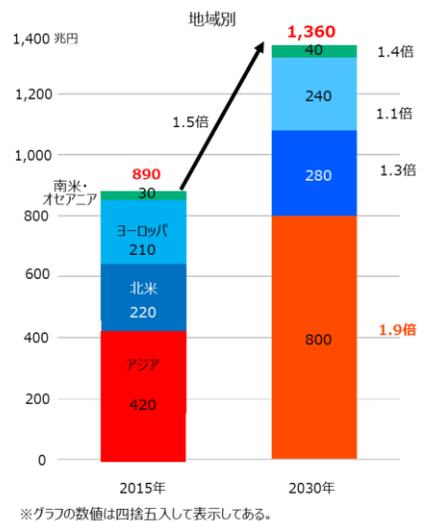


出典：農林水産省「令和3年度食料・農業・農村の動向」

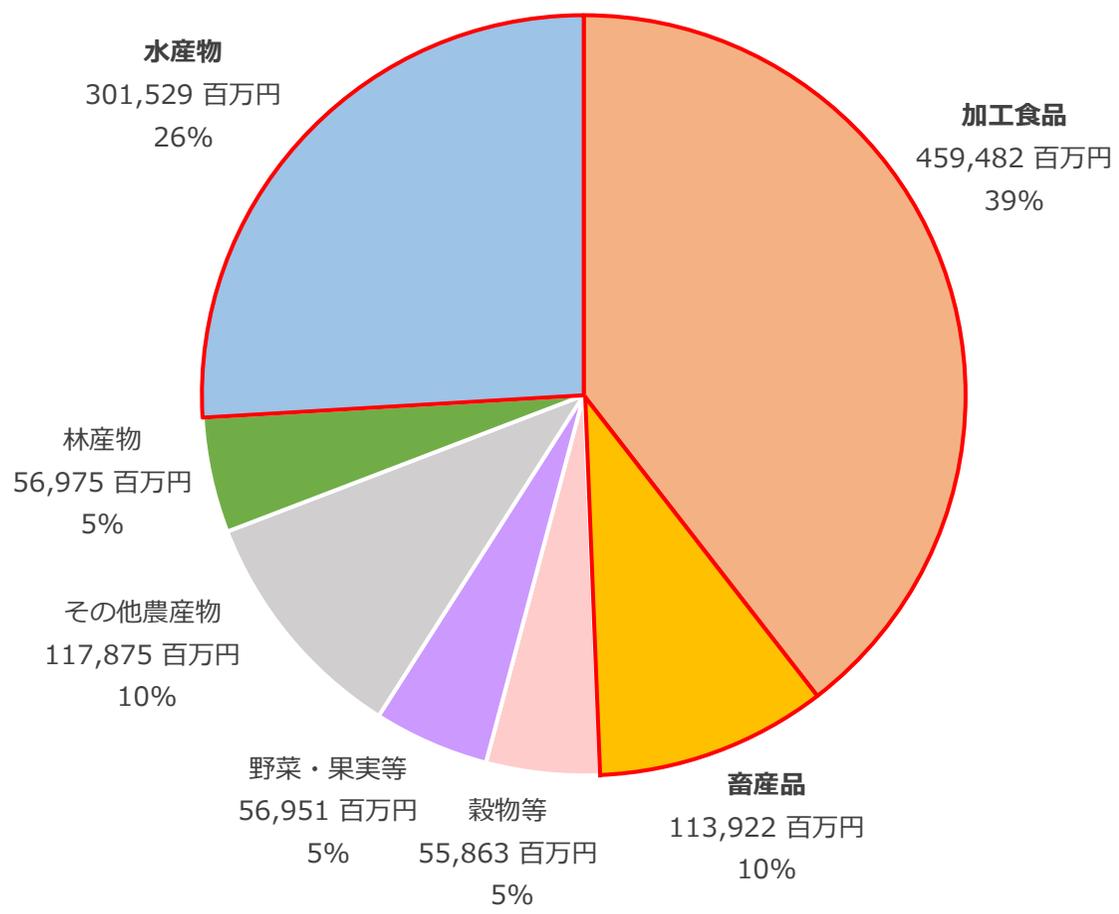
海外及び国内の食品市場の状況

- 国際的な飲食料市場の規模は拡大する見込み。一方、国内においては、人口減少に伴い、食品市場の規模は縮小。
- 我が国の輸出はこれまで停滞し、拡大し続ける世界の食料需要を取り込めていない。他の主要先進国と異なり、日本は、ほぼ100%国内市場に依存。
- また、我が国の輸出は今のところ加工食品、畜産物、水産物で先行して進んでおり、その他の農産物の輸出も進めていくことが課題。

○世界の飲食料市場規模



○2021年の農林水産物・食品輸出額品目別



○主要先進国の国内生産額に占める輸出 (億ドル)

国名	生産額 (農産物・食品製造業)	輸出額 (農産物・加工食品)	輸出割合
アメリカ	12,335	1,442	12%
フランス	2,591	730	28%
イタリア	2,302	485	21%
イギリス	1,548	286	18%
オランダ	1,066	1,018	95%
日本	4,725	84	2%

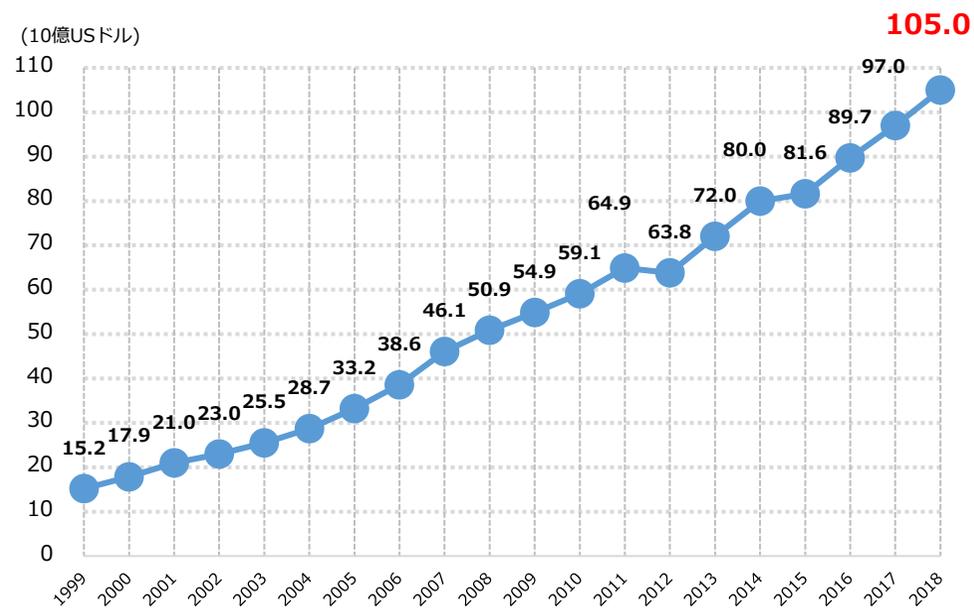
注：日本以外の諸外国の林業・漁業生産額については、比較可能な統計がないことから、生産額、輸出額とも含めていない。日本のみ農林水産物として算出。
 資料：FAOSTAT, 三井物産戦略研究所, Global Trade Atlas, 生産農業所得統計, 工業統計, 林業産出額, 漁業産出額, 農業・食料関連産業の経済計算

資料：財務省「貿易統計」を基に農林水産省作成（確々報（2021）公表に基づき修正済み）

有機食品市場の状況

- 世界の有機食品売上は増加し続けており、2018年では約1,050億ドル(約11.6兆円/1ドル=110円)。
- 米国の売上は5兆円超、独、仏、中国は1兆円超に達する。
- 持続的な農業を実現するためだけではなく、輸出を拡大していく上でも、有機農産物の生産拡大は必要。

○世界の有機食品売上の推移



※FIBL & IFOAM The World of Organic Agriculture statistics & Emerging trends 2008～2020をもとに、農業環境対策課作成

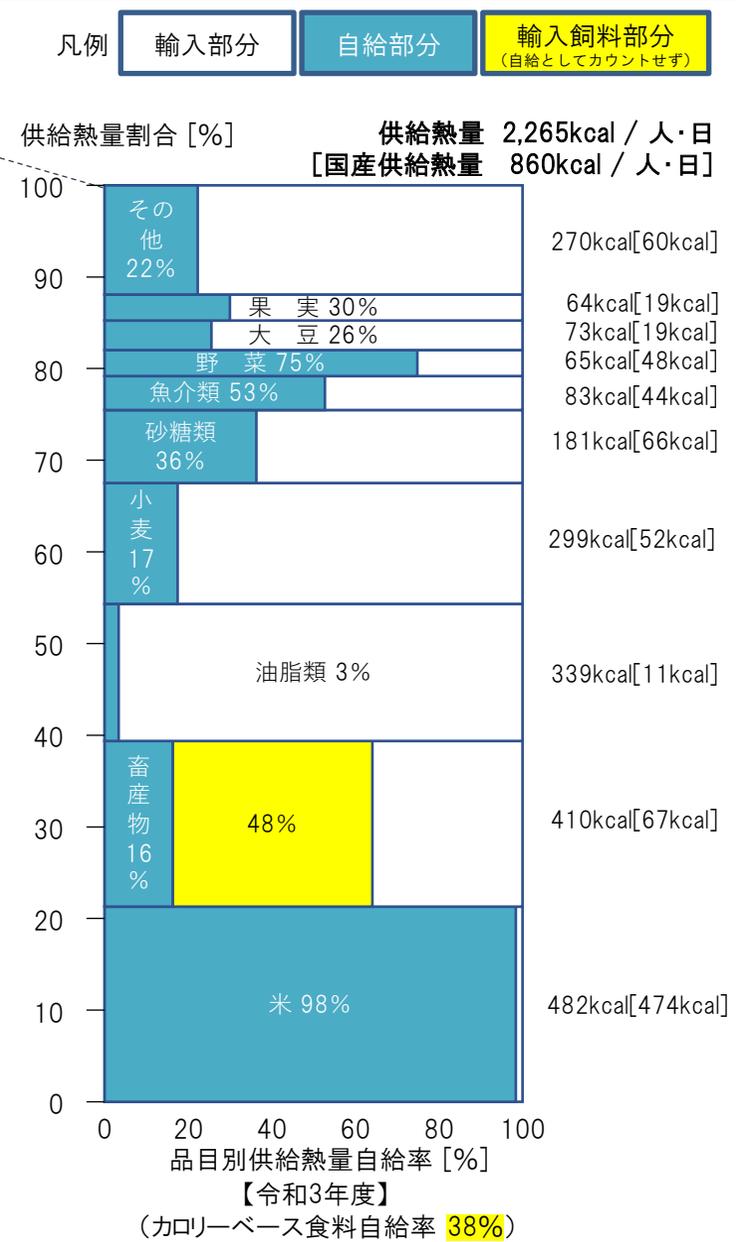
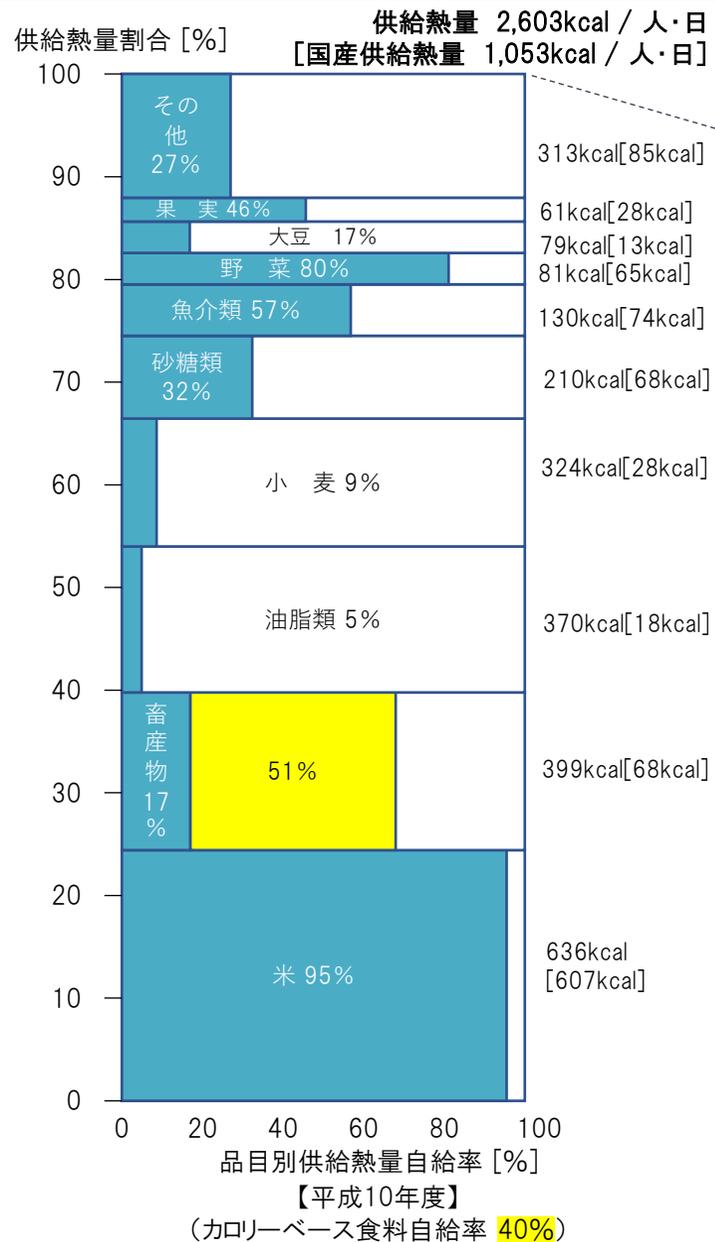
○国別の有機食品売上額 (2018年)

国名	売上額
アメリカ	5兆1,967億円
ドイツ	1兆3,965億円
フランス	1兆1,698億円
中国	1兆0,351億円
(参考) 日本	1,816億円

※FIBL & IFOAM The World of Organic Agriculture statistics & Emerging trends 2020をもとに、農業環境対策課作成
 ※1ユーロを128円に換算し作成

食料消費構造とカロリーベース食料自給率の変化

○ 我が国は、過去20年で食料自給率は向上していない。



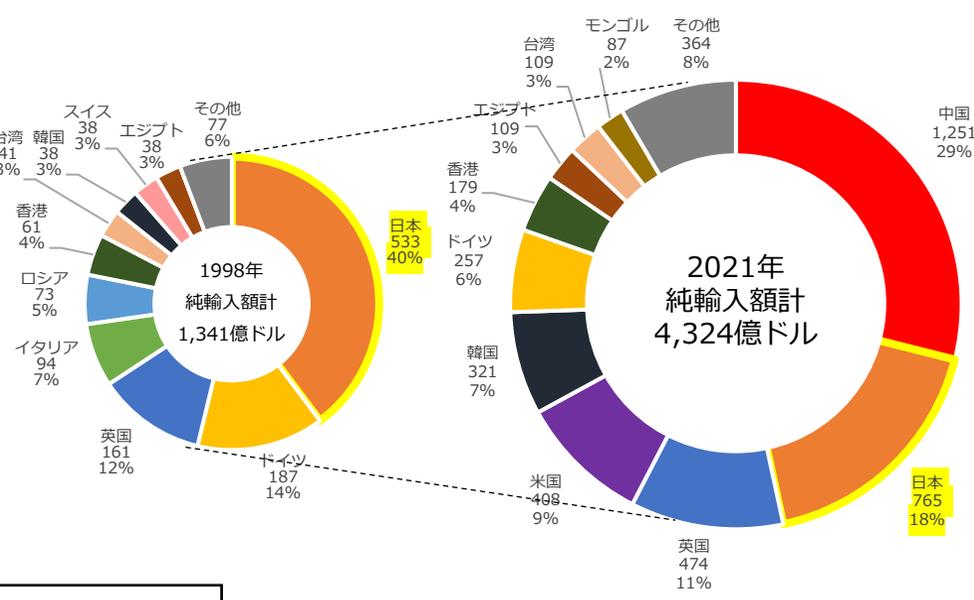
凡例

- 輸入部分
- 自給部分
- 輸入飼料部分 (自給としてカウントせず)

我が国の輸入状況（農林水産物）

- 1998年時、日本は世界1位の農林水産物の輸入国であり、プライスメーカー的な地位であったが、近年はその地位が低下しており、中国が最大の輸入国となっている。
- 20年前は、食料自給率は低くとも諸外国から購入できていたが、近年、中国が輸入を増やす中、安定的な輸入と国産農林水産物の生産拡大が課題。

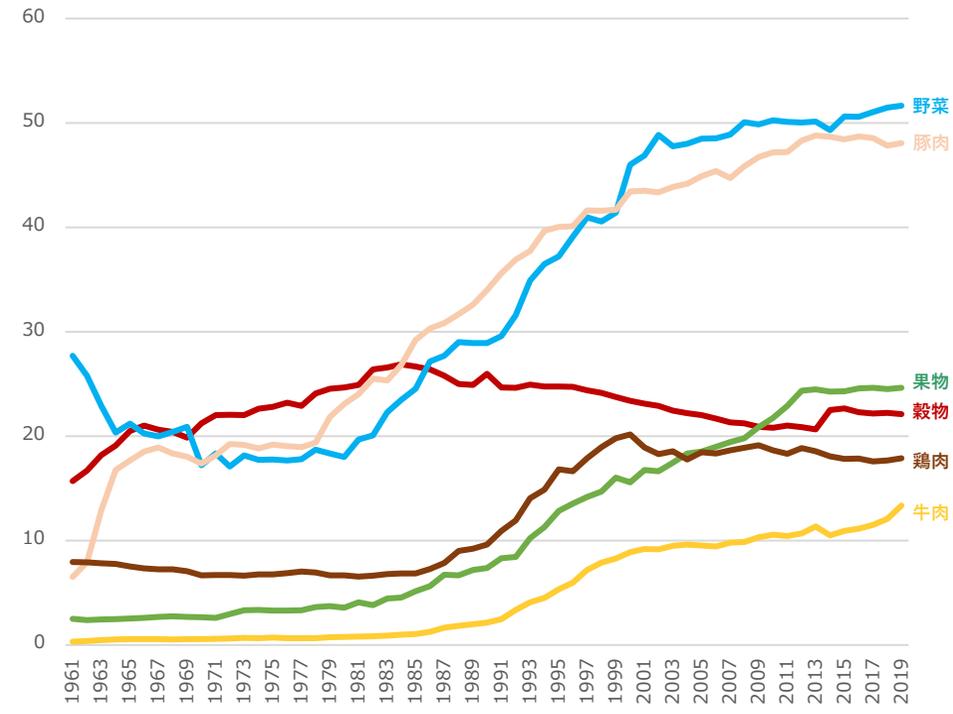
○農林水産物純輸入額の国別割合



<凡例>
 国名
 純輸入額 (億ドル)
 シェア (%)

出典：「Global Trade Atlas」
 注：経済規模とデータ制約を考慮して対象とした41カ国のうち、純輸入額（輸入額-輸出額）がプラスとなった国の純輸入額から作成。

○世界の食料消費量に占める中国の割合



出典：「FAOSTAT」

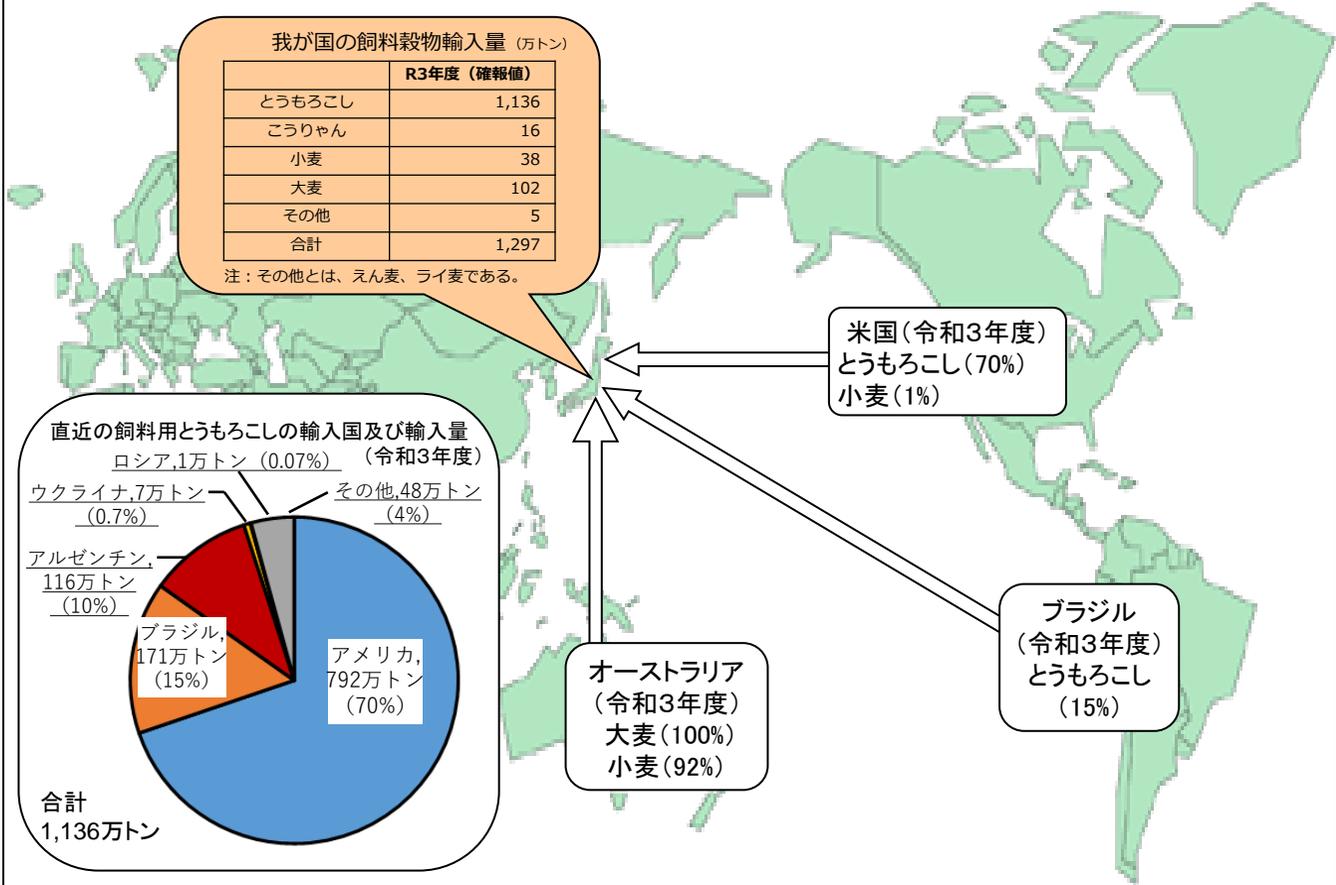
我が国の輸入状況（生産資材及び飼料）

○ 国産農産物の生産に欠かせない肥料の原料は、海外からの輸入に依存。また、畜産物の生産に欠かせない飼料の大宗は輸入に依存。

○肥料原料の自給状況（2021肥年）

種類	自給状況
尿素	約5%
りん安 (りん酸アンモニウム)	ほぼ全量を輸入
塩化加里 (塩化カリウム)	ほぼ全量を輸入

○飼料作物の輸入状況

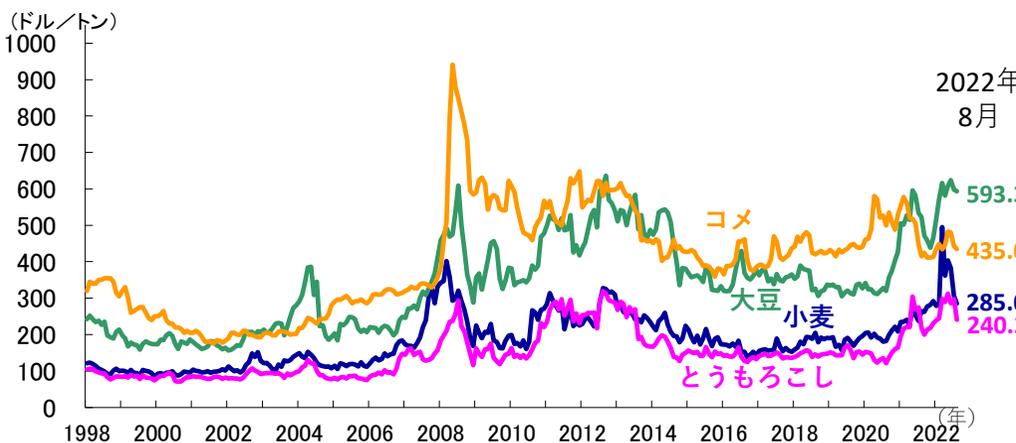


資料：財務省「貿易統計」、USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates (Jul 12, 2022)」、
(公社) 配合飼料供給安定機構「飼料月報」
注：米国産とうもろこしの需給については、1bu=約0.025401 tとして農林水産省飼料課において換算。

輸入依存度の高い穀物、生産資材及び飼料の価格の動向

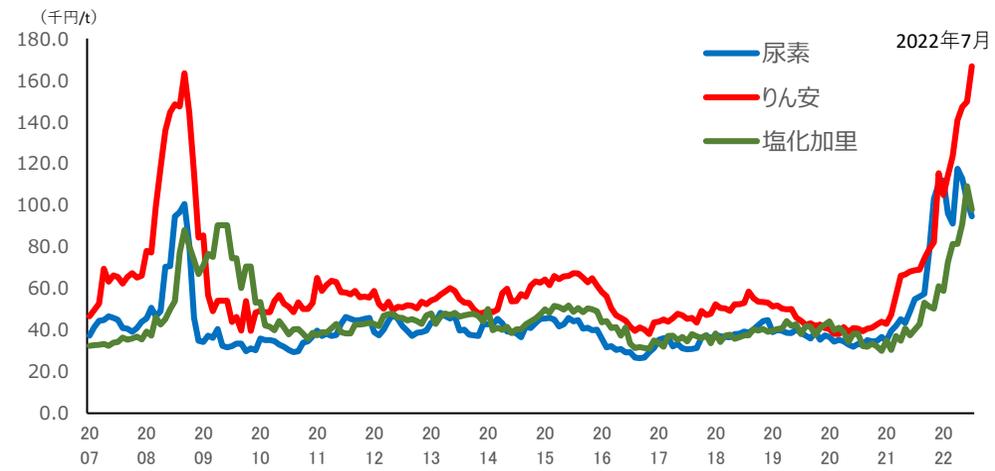
- 2020年後半から南米の乾燥、中国の輸入需要の増加、2021年の北米の北部の高温乾燥等により上昇し、2022年に入り、ウクライナ情勢が緊迫化する中、さらに上昇。
- 化学肥料原料の国際価格は、昨年半ばより、穀物需要の増加や原油・天然ガスの価格の上昇等に伴い、高騰。
- 配合飼料価格は、配合飼料原料や海上運賃、為替相場の影響により、上昇傾向で推移。

○穀物等の国際価格の動向（ドル/トン）



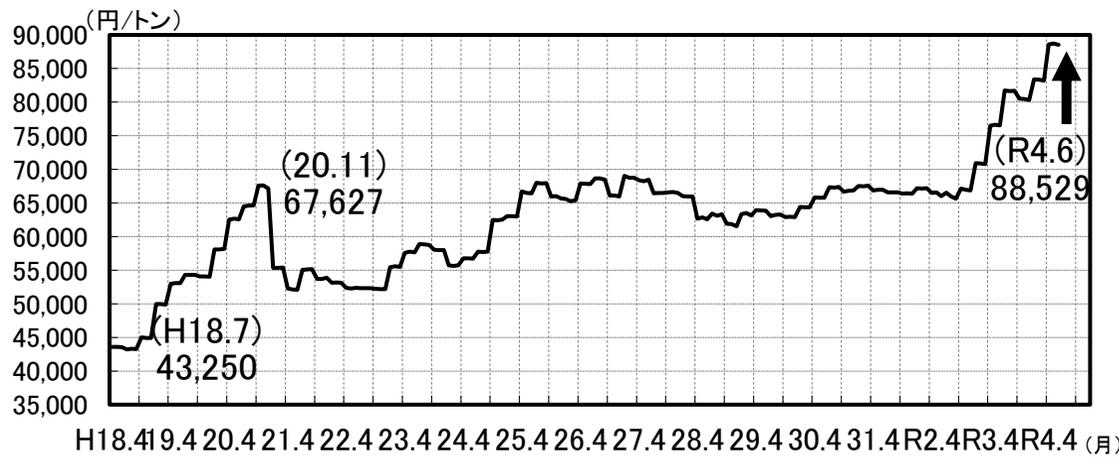
※ シカゴ商品取引所の各月第1金曜日の期近終値の価格である。
過去最高価格については、シカゴ商品取引所の全ての取引日における期近終値の最高価格。

○肥料原料の輸入価格の動向



※ 農林水産省調べ
財務省貿易統計における各原料の輸入額を輸入量で除して算出。
ただし、月当たりの輸入量が5,000t以下の月は前月の価格を表記。

○配合飼料工場渡価格の推移

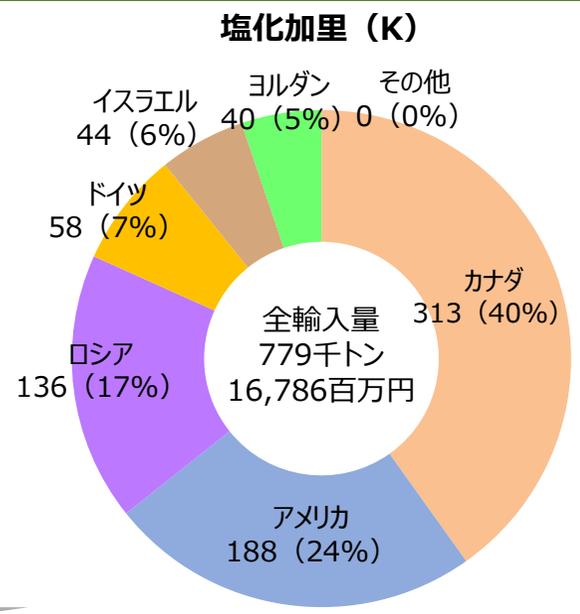
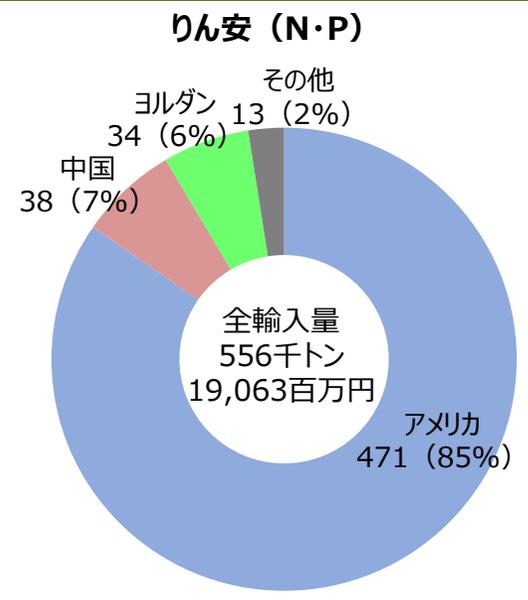
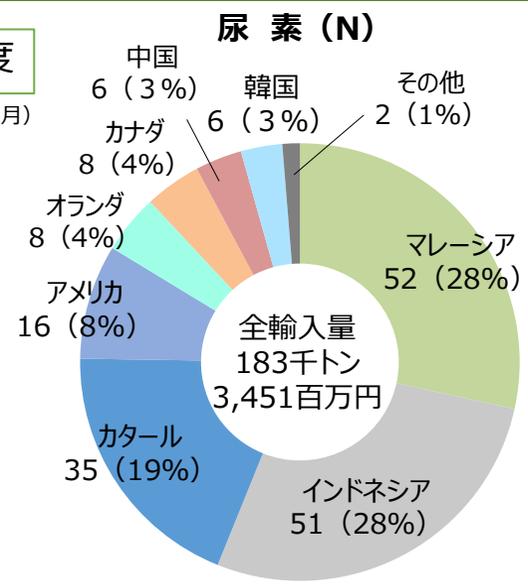


資料：（公社）配合飼料供給安定機構「飼料月報」

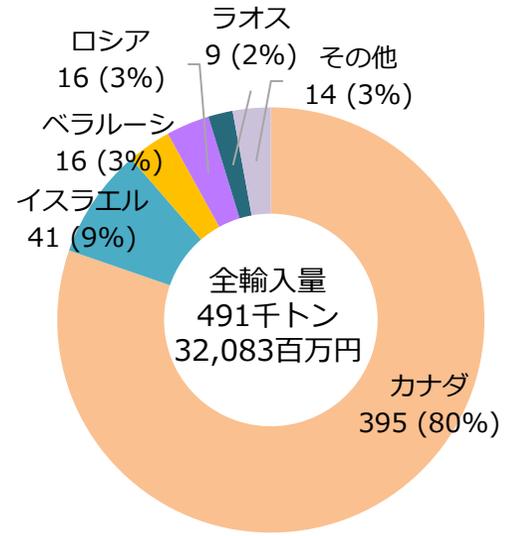
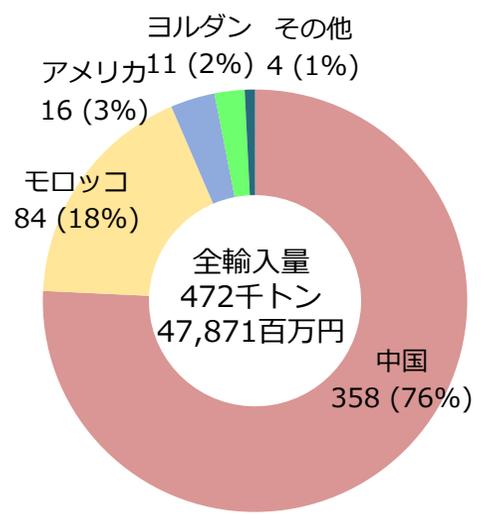
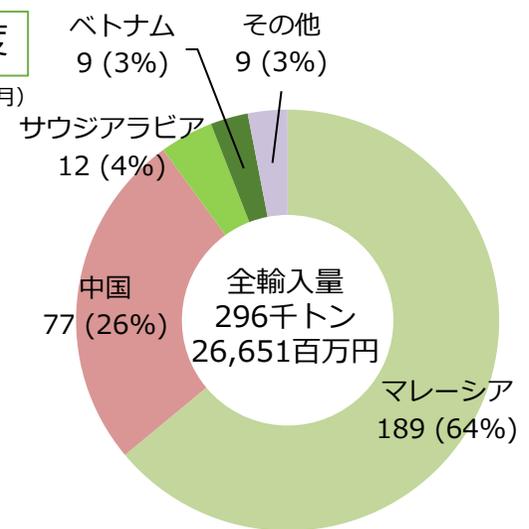
肥料原料の輸入状況（輸入量、輸入金額、輸入先国）

○ 尿素、りん安、塩化加里のいずれにおいても、輸入価格の上昇により輸入金額が増加している。
 ○ 主な輸入先国は、尿素についてはマレーシア、中国、りん安については中国、塩化加里についてはカナダと、特定の国への依存度が高い。

1998肥料年度
 (1998年7月～1999年6月)



2021肥料年度
 (2021年7月～2022年6月)



※ 資料：財務省「貿易統計」等を基に作成